

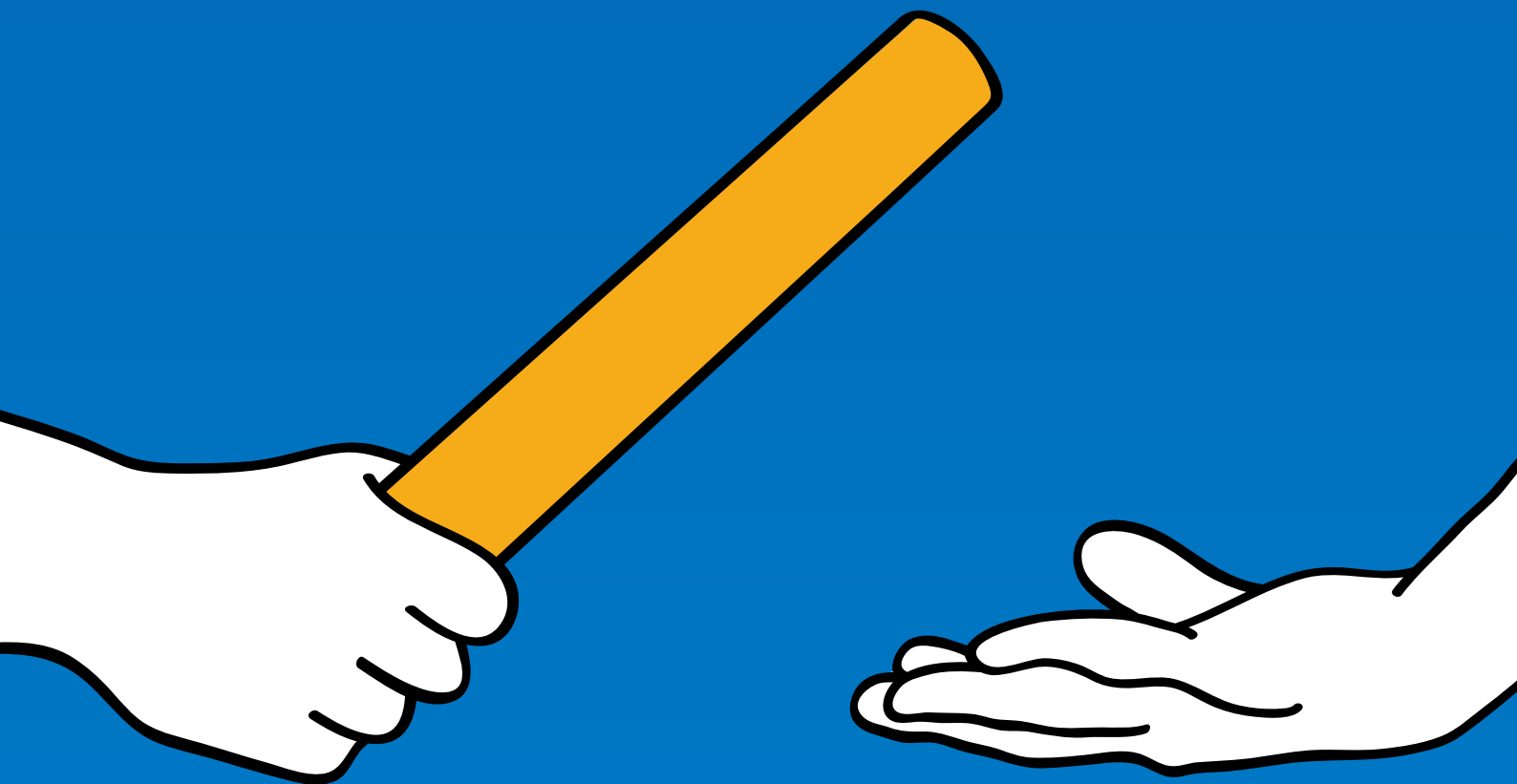
沖縄

2011 秋

寄付なび



未来につながる。



公益財団法人

みらいファンド沖縄

本誌掲載の寄付先への寄付受付期間：2011年9月1日～2012年8月31日

寄付の行き先、気になりませんか？

「この寄付は、何に使われるんだろう？」情報化社会が成熟し、さまざまな情報を手に入れやすくなった私たちが、自分の寄付金の行き先を確かめたいのは当然のことでしょう。また、もっと自分の気持ちに近い寄付先、自分自身が日頃から感じている「何とかしたい」という思いを叶えてくれそうな活動はないか、と考える人が増えているようです。

私たちみらいファンド沖縄は、県内で社会的課題の解決に取り組む NPO を支援する公益財団法人です。「寄付をしたいけれど、どんな NPO があるの?」「その NPO はこれまでどんな活動をしているの?」というような疑問にお答えすることで、NPO への支援の流れを変えたいというのが、私たちの活動の目的です。

活動には「ものがたり」があります。

NPO の活動には必ず、社会的課題の解決という目的があります。地球全体レベルの大きい話から、地域の小さいけれど複雑な問題まで、多種多様なストーリーがあります。

この冊子では、県内の NPO とその事業を紹介しています。これらは、みらいファンド沖縄の寄付募集活動支援プログラムで支援しているもので、みらいファンド沖縄を通じて寄付をすることで、その NPO を支援することができます。いずれも、みらいファンド沖縄が設置する助成等選考委員会によって厳正な選考を行った上で採択された事業で、いただいた寄付金をきちんと社会の課題解決に役立てることのできる団体です。

この冊子で紹介している NPO とその活動の中に、あなたが共感できるものがあれば、ぜひ寄付で応援してください。沖縄がもっと住み良いところになってほしい、というあなたの気持ちを、NPO が実践します。

●ここで言う NPO とは、特定非営利活動法人（NPO 法人）のみならず、任意団体や社団・財団法人を含む広義の NPO のことです。

みらいファンド沖縄は公益財団法人です。

公益財団法人の税制優遇のメリットを活用して NPO の寄付募集を支援しています。



みらいファンド沖縄は、2011年4月に沖縄県より「公益認定」を受けた、公益財団法人です。公益財団法人へ寄付をすると、その金額に応じて税制優遇が受けられます。みらいファンド沖縄では、この制度を活用して、NPO が活動をしていく資金の調達を支援しています。個人の場合は、「寄附金控除」の形で、所得税や住民税が安くなり、法人の場合は、「損金算入」の限度額が広がります。

寄付金の税制優遇や、寄付の受付に関する注意事項について、くわしくは P14～15 をご覧ください。

目次

沖縄がすこしずつ良くなることを手助けできる 寄付先があります

小学校に環境学習ワークショップ
をプレゼントできる寄付



ごみ減量体験型・環境学習プログラム
「買い物ゲーム」事業

助成先：沖縄リサイクル運動市民の会

P4

就職困難者に自分の力に気付ける
ジョブカウンセリングを



生活困窮者のための新しい就労支援事業

助成先：特定非営利活動法人プロミスキーパーズ

P5

全国ネットワークを活かした公演
活動支援でアーティストを育成



沖縄アーティスト送出事業「カルコンテ」

助成先：特定非営利活動法人沖縄イベント情報ネットワーク

P6

演劇に取り組む学生をハンセン病
シンポジウム開催地へ派遣



沖縄の学生がつくる
演劇の県外公演プロジェクト

助成先：特定非営利活動法人 HIV 人権ネットワーク沖縄

P7

沖縄 ecocon 受賞学生が、
アイデアを形にするために



沖縄の学生の環境活動チャレンジ支援事業

助成先：NPO エクスブリッジ

P8

子どもへの暴力防止ワークショッ
プを寄贈できる



CAP プログラム
「お試しセット」プレゼント事業

助成先：特定非営利活動法人おきなわCAPセンター

P9

障がいを持つ子どもを支えるため
のシンポジウム開催に支援を



障がいがあってもお家で生活ができる
環境づくりシンポジウム事業

助成先：一般社団法人 Kukurū (くくる)

P10

小中学生の職場体験学習をマチ
グラーで受入れることを支援



マチグラーで子どもを育てる
職場体験受入れプロジェクト

助成先：特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく

P11

講師派遣を通じて、
離島のこどもたちの成長を支援



沖縄離島バドミントン基金

助成先：沖縄離島バドミントンスクール実行委員会

P12

グローバルな視野をもつ、
沖縄の次代を担う人材の育成を



沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金

助成先：地域活動に関心があり、SIFEワールドカップ視察
を希望する県内大学生(公募)

P13

寄付の流れ・寄付控除の説明

P14・15

■ ばくと採択事業 8 事業

NPO の寄付募集活動を支援するプログラムです。NPO は自ら取り組んでいる社会的課題を社会に対し PR し、事業に必要な寄付を募ります。みらいファンド沖縄は税制優遇制度を活用し、NPO の寄付募集活動を支援します。

■ じぶん基金 2 基金

「生活する個人」が持つ専門性から気付ける、身近な社会的課題もあります。「じぶん基金」は、そんな「気付いた個人」を支えながら基金づくりをし、課題解決のチャレンジを応援していくプログラムです。

小学校に環境学習ワークショップをプレゼントできる寄付 ごみ減量体験型・環境学習プログラム「買い物ゲーム」事業

助成先：沖縄リサイクル運動市民の会

寄付募集目標額 92,000円×5回分= 460,000円



買い物ゲームで、子どもたちが食材を選ぶようす

「買い物ゲーム」とは

本物そっくりな描かれたイラストの材料キットを使って、買い物体験をしながらゴミ減量について学べるプログラムです。お家でカレーを作るという設定で、材料を模擬店舗から買うことからスタートします。そのときにどうしても発生するのが、容器や包装のゴミ。その量や質、処理の仕方、環境への影響などについてをみんなで考える場が、「買い物ゲーム」です。

このプログラムは、沖縄リサイクル運動市民の会のオリジナル。2004年にはグリーン購入大賞優秀賞を受賞するなど、全国に広がりつつある、沖縄発の環境学習プログラムです。2000年の開発から11年の間に、249校、683回（クラス）、延べ22484名の人がこのプログラムを体験しています。

子どもが変われば、大人も変わる！

このプログラムは、2000年から実施しはじめ、今年2011年7月までに、通算683回も実施されてきました。実施後の保護者アンケートによれば、体験した子どもの7割が、家庭での言動に変化があったそうです。「ゴミは分別しなきゃ！」「買い物に行くな、マイバッグを持っていこうよ」と、子どもたちが言うことで、お家の人にも変化が生まれます。

このように、子どもたちが大人に与える影響

はもちろんですが、子どもたちがそんなエコ・マインドを持って大人になったら、さらにゴミは減量できることでしょう。

子どもたちと一緒に、 沖縄の未来を守る

「買い物ゲーム」をできるだけ多くの子どもへ届けたい、と沖縄リサイクル運動市民の会では、寄付を募っています。この事業にいただいた寄付は、小学校や公民館での「買い物ゲーム」実施の費用（指導員の日当やゲームで使用する道具の運搬費等）に活用されます。

また、このプログラムの継続と質の向上のためにファシリテーター（指導員）の育成トレーニングも行われます。意見聴取などを行い、いただいた寄付を学生が有効に使えるよう、サポートしていくそうです。

学生が真剣に地域社会の課題を向き合うことを応援する気持ちで、寄付をいただければと思います。



ごみ処理のルートを説明するようす

92,000円集まったら、
小学校や公民館で「買い物ゲーム」
を1回実施できます。

- ・指導員を3～4名派遣
- ・道具の運搬
- ・指導員養成トレーニング実施

スタッフの声

「ごみ問題」を学べるプログラムは意外に少なく、日々の暮らしとの密接なつながりを体感できるプログラムとなると他にないと思います。毎年、小学校をはじめ応じきれないほどの申し込みがあり、また県外の自治体や海外のNGOなどからも実施依頼が来られます。スタッフとして関わって5年になりますが、「ごみを捨てるのってタダじゃないんだ！」という子どもたちの素直な気づきに、いつもハッとさせられてしまいます。

…眞喜志 敦（沖縄リサイクル運動市民の会 環境教育プロジェクトスタッフ）

利用者の声

ごみの処理にお金がいっぱいかかっていてムダだなと思いました。工夫すればごみの数は少なくなると気づきました。今までは少ししかエコに対する意識がなかったけれど、この勉強をしてその気持ちが高まったと思います。…小学4年生 Aさん

寄付受付情報

ごみ減量体験型・環境学習プログラム「買い物ゲーム」事業

助成先：沖縄リサイクル運動市民の会

専用口座 沖縄銀行 鳥堀支店 普通 1387876
琉球銀行 首里支店 普通 580405

郵便振替 01780-6-149204
【通信欄への必記事項】買い物ゲーム

Check!!

公益財団法人みらいファンド沖縄を通じてこの事業にいただいた寄付は、**税制優遇(寄附金控除/損金算入)の対象**となります

*領収証の必要な方は、みらいファンド沖縄まであらかじめ「寄付申込み」を行い、領収証発行に必要な事項をお知らせください。
*各寄付受付口座の名義はすべて「公益財団法人みらいファンド沖縄（代表理事 小坂直）」となります。

生活困窮者に自分の力に気付けるジョブカウンセリングを 就職困難者のための 新しい就労支援事業

助成先：特定非営利活動法人プロミスキーパーズ

寄付募集目標額 57,500 円× 4 回分= 230,000 円

どんな技術を持っているか、 気付くことから始めよう

怪我や病気、会社の都合など、本人の思いもよらないきっかけで仕事を失った方が、その後、積極的に就職活動をして、なかなか仕事を得られず、やがて就職活動や生活そのものがままなくなってきた…。こうした経緯で生活困窮者となる方は、次第に「社会」からこぼれおちてしまいます。

こうした方たちは、自分の持っているスキルを過小評価しており、新しい仕事を見つける窓口を狭くしてしまいがちです。また近年では、IT化が進んだため、自らハローワークで職を検索することも難しくなった方も少なくありません。

自立を促す就職支援を

プロミスキーパーズは、沖縄県内における路上生活者や生活困窮者の支援を行っている団体です。県内では数少ない居宅を持った団体で、現在2施設に200名近くの方が生活しています。また、就職が困難な方もいますが、運営する農地などで軽作業に携わることから始め、フルタイムでの就職が可能になるよう支援を行っています。プロミスキーパーズでは、今回新しく就労支援事業をスタート。施設に入居する方はもちろん、生活困窮者が仕事を得て社会復帰をすることを、丁寧な就労カウンセリングで支援したいと考えています。みらいファンド沖縄

を通じた寄付では、2ヵ月間の就労カウンセリングを行う費用を募っています。

資格を持つ相談員が 根気強くサポート

「職業紹介責任者」という資格があるのをご存知ですか？ 職業紹介を行う事業者には、この資格を持つ人を配置することが、職業安定法で義務づけられています。プロミスキーパーズには、この資格を持つ人が3人おり、この事業に真摯に取り組んでいます。

まずは、丁寧なヒアリングで相談者の職歴や技能・スキルなどを聞き取り、企業を紹介。それだけに留まらず、不採用時の改善点を一緒に考えたり、採用後の悩み相談をしたりというように、求人票を渡すだけではないサポートが行われています。仕事を探す人に寄り添う、根気強い支援を行えるよう、みなさまのご支援をお願いいたします。



プロミスキーパーズが行う炊き出しのようす。

利用者の声

私はプロミスキーパーズのお世話になる前は那覇市内でホームレスをしていました。その時はその日食べるので精一杯でした。しかし、那覇市役所からプロミスキーパーズの施設を紹介され、宿泊・食事の提供をしてもらいながら、なんとか求職活動が出来る形を作ってもらいました。

そして、施設のスタッフの方が私のホームレスになる前の仕事のことを聞くと、いくつかの仕事を紹介してもらいました。今はその中の一つで就職することができました。まだ正社員ではなく、アルバイトのようなものですが、今後この職場で頑張ると正社員へステップアップもできるという環境も作ってもらいました。

今後プロミスキーパーズでお世話になった御恩を少しでも返していけるように頑張っています。

…T.F さん

スキルカウンセリングのステップ

- ① 初来所・初回面談（職歴や希望職種の聞き取り）
- ② 求人情報の紹介・収集
- ③ 企業面接（不採用時の原因改善）
- ④ 企業実習
- ⑤ 本採用
- ⑥ 月2回程度の定期訪問

いただいた寄付は、こうした支援活動担当するスタッフ人件費や事務所維持費に充てられます。

寄付受付情報	生活困窮者のための就労支援事業	
	助成先：特定非営利活動法人プロミスキーパーズ	
専用口座	沖縄銀行 鳥堀支店 普通 1387887 琉球銀行 首里支店 普通 580412	郵便振替 01780-6-149204 【通信欄への必記事項】 就労支援

Check!! 公益財団法人みらいファンド沖縄を通じてこの事業にいただいた寄付は、**税制優遇(寄附金控除/損金算入)の対象**となります
 *領収証の必要な方は、みらいファンド沖縄まであらかじめ「寄付申込み」を行い、領収証発行に必要な事項をお知らせください。
 *各寄付受付口座の名義はすべて「公益財団法人みらいファンド沖縄(代表理事 小阪巨)」となります。

全国ネットワークを活かした公演活動支援でアーティストを育成 沖縄アーティスト送出事業 「カルコンテ」

助成先：特定非営利活動法人沖縄イベント情報ネットワーク

寄付募集目標額 115,000円×6回分=690,000円



筥柄暦 100号の歴史を紹介する展覧会のようなす
(ジュンク堂書店那覇店にて)

沖縄の魅力を伝えるアーティストを、もっと本土へ！

沖縄の風土が育んだ文化芸術が、沖縄の魅力発信という面で非常に大きな役割を担ってきたことは、誰もが知るところ。伝統芸能、音楽など、さまざまな分野のアーティストが沖縄から本土へ出掛け、活動しています。

しかし、本土のアーティストと異なるのは、本土までの移動に費用がかかってしまうこと。これが実は、「超」メジャーなアーティスト以外には、非常に大きなハードルです。自ら活動の幅を広げるために本土でのツアーを組むにも、その費用をチケットに反映させざるを得ず、観客へ割高感を与えざるを得ません。それだけでなく本土のイベント企画者も、費用がかさむ分、沖縄のアーティストに声を掛けにくいのです。

沖縄最強のイベント情報誌だからできる支援をアーティストに！

そんなアーティストたち共通の悩みを知ったのは、沖縄イベント情報ネットワーク。このNPO法人は、『筥柄暦（びらつかこよみ）』というイベント情報サイトを運営し、沖縄の音楽・演劇・美術・伝統芸能等のイベント情報を紹介しています。毎月発行しているフリーペーパー版は、ゆいレールの各駅や劇場などで見かけた方も多くことでしょう。

実は、県内イベントだけでなく、沖縄アーティ

ストの県外での活動も紹介しており、そんな形の情報誌は他県では類がありません。フリーペーパー版は、実は県外の沖縄料理店・ライブハウスなどにも「送ってほしい」との要望が多く、編集部は全国に強いネットワークを有しています。そんな沖縄イベント情報誌だからこそできるアーティスト支援を考え、今回、みらいファンド沖縄の支援プログラムを活用することにしました。

沖縄のアーティストの活動の幅を広げる支援

「カルコンテ」とは、カルチャー+コンテナのこと。沖縄の文化芸術を「輸出」する支援です。演奏・上演のできる場所はどこか、沖縄の文化芸術を待っている人たちがどれだけいるか。そんな情報を事前にアーティストに提供するなど、演奏・上演活動の開拓のための支援活動と渡航費補助を行うため、寄付を募っています。支援アーティストは『筥柄暦』でも紹介していきます。沖縄の文化芸術をもっと多くの人に知ってもらいたい！ という方からの寄付をお待ちしています！

いただいた寄付は
こんな費用に充てられます。

- アーティスト1組につき
- 115,000円分の支援
- ・渡航費の補助
- ・マネジメントと広報支援
- ・事務費運営費等

『筥柄暦（びらつかこよみ）』は
沖縄最強のイベント情報フリーペーパー！

- 2011年8月で通算100号
- 毎月18,000部を県内外で配付
- 県外約500の沖縄料理店等に配付
- 毎月約700件のイベント情報を掲載

ウェブ版もぜひご覧ください
<http://event.uruma.jp/>



『筥柄暦』100号記念ライブ「びらつか音楽祭」リハーサルの様子

寄付受付情報

沖縄アーティスト送出事業「カルコンテ」

助成先：特定非営利活動法人沖縄イベント情報ネットワーク

専用口座 沖縄銀行 鳥堀支店 普通 1387945
琉球銀行 首里支店 普通 580498

郵便振替 01780-6-149204
【通信欄への必記事項】カルコンテ

Check!!

公益財団法人みらいファンド沖縄を通じてこの事業にいただいた寄付は、**税制優遇(寄附金控除/損金算入)の対象**となります
*領収証の必要な方は、みらいファンド沖縄まであらかじめ「寄付申込み」を行い、領収証発行に必要な事項をお知らせください。
*各寄付受付口座の名義はすべて「公益財団法人みらいファンド沖縄（代表理事 小坂巨）」となります。

演劇に取り組む学生をハンセン病シンポジウム開催地へ派遣 沖縄の学生がつくる 人権劇の県外公演プロジェクト

助成先：特定非営利活動法人 HIV 人権ネットワーク沖縄

寄付募集目標額 30,000 円× 45 回分 = 1,350,000 円



公演のまよう

HIV/AIDS の社会的課題は、 差別・偏見へ

沖縄県は、HIV/AIDS の感染率が全国第 3 位です。予防のための啓発も継続して必要ですが、実は、差別・偏見に苦しむ人もいます。また、差別・偏見は間違った知識を招き、肝心の予防も阻害される危険もはらんでいます。

HIV 人権ネットワーク沖縄では、夜間電話相談や街頭検査などの予防活動を行う他、2000 年から毎年 12 月頃に「人権フォーラム」を開催し、差別・偏見をなくす活動にも力を入れています。

差別の歴史を遡る人権劇が、 日本全国の患者を勇気づける

そのシンポジウムをはじめ、県内でのさまざまなイベントで上演しているのが、小学生～専門・大学生による人権を考える演劇作品です。毎年 40～60 名ほどの学生が、おのおの役割を担い、作品を作り上げます。『光の扉を開けて』という作品では、HIV 感染者が元ハンセン病患者と出会います。病に対する差別の歴史を遡るとハンセン病に行きつき、作品のテーマに折り込んだそうです。

この作品が厚生労働省の目に止まり、2008 年から毎年、日本各地で行われる「ハンセン病シンポジウム」に招聘されるようになりました。昨年度 2010 年は青森で公演。好評を得て、子

どもたちもますます自信ができました。

学生たちが学んだ大切な気持ちを 伝えに全国へ

しかし、招聘される予算はいつも十分ではありません。離島沖縄から本土へ行くには、旅費がどうしてもかかってしまうからです。学生の個人負担が少なからず発生し、中には参加できない子もいました。「今年こそは、みんなで行きたい!」というのが、子どもたちはもちろん、スタッフの願いでもあります。

HIV 人権ネットワーク沖縄では、「HIV」を「ヒューマン・インナー・バリュー」の略とも捉え直し、若者が思いやりの心を持って社会へはばたいてほしいと願っています。生きる上での義務と責任、思いやりや感情のコントロールの大切さ、話す前に考えて、他人を傷つせず、自分も大切にすることに気付く……。

演劇作品をみんなで作り上げることを通じ、大切なことを学んだ学生たちが、その成果を発表しに行けるよう、どうぞご支援ください!

2011 年 11 月には、静岡で公演!
みんなで行けるといいな。

県内でも公演をしています。
詳しくはウェブサイトをご覧ください。
<http://www.hiv-net.com/>

演劇に携わる学生の思い

愛の素晴らしさとか、友愛を改めて知りました。それを演劇で伝えられたかと思えます。また達成感でいっぱいです。自分もハートを開いて仲間と接していきたいと思いました。今回自分はたくさん正しい行いや愛などを学び、得ました。それを心に留めておいて、日常で表していきたいと思いました。「本当に尊いもの、美しいもの、それは愛! この世は愛で満ちている!」というセリフで本当にそうなのだと思えて気づかされました。

…首里東高校 1 年 女子 (おばあさん役)



2010 年の青森公演に参加した学生たち

寄付受付情報

沖縄の学生がつくる人権の県外公演プロジェクト

助成先：特定非営利活動法人 HIV 人権ネットワーク沖縄

専用口座 沖縄銀行 鳩塚支店 普通 1387901
琉球銀行 首里支店 普通 580436

郵便振替 01780-6-149204
【通信欄への必記事項】学生人権劇

Check!!

公益財団法人みらいファンド沖縄を通じてこの事業にいただいた寄付は、**税制優遇(寄附金控除/損金算入)の対象**となります
*領収証の必要な方は、みらいファンド沖縄まであらかじめ「寄付申込み」を行い、領収証発行に必要な事項をお知らせください。
*各寄付受付口座の名義はすべて「公益財団法人みらいファンド沖縄(代表理事 小阪巨)」となります。

沖縄 ecocon 受賞学生が、アイデアを形にするために 沖縄の学生の 環境活動チャレンジ支援事業

助成先：NPO エクスブリッジ

寄付募集目標額 115,000 円×3 回分= 345,000 円



学生ワークショップのようす

地域課題に取り組む学生が増えています！

近年、学生が地域社会の課題に取り組んでいるのを見聞きすることが増えてきました。地域づくりや環境保全、社会的弱者支援など、その活動は多岐に渡ります。東日本大震災の被災地にも多くの学生がボランティアとして訪れていることは、ご存知のことでしょう。ここ沖縄は、沖縄を心から愛する学生が多いことから、そうした活動を行う学生も多いように思います。

ゴミ減量に瑞々しいアイデアを

エクスブリッジは、大学生インターンシップ（職業体験）のコーディネート業務を行っているある会社の、企画部門が独立し設立されたNPOです。歴史は浅いものの、「つながりをデザインする」をキーワードに、地域づくり事業などを行っています。中でも、地域課題に関心

のある学生の支援にも力を入れています。

今年、那覇市の「4R 推進事業」に関わる中で、ここでも若者の豊かな感性を活かしたいと、ゴミ問題を解決するアイデアを募るコンテスト「沖縄 ecocon」開催を計画しています。

学生のチャレンジを応援してみませんか？

せっかく若者から寄せられたアイデアをぜひ活かしたいと、エクスブリッジでは、コンテストの開催費用とは別に、学生に託せる「活動資金」を寄付で募ることにしました。エクスブリッジでは企画のブラッシュアップや、専門家への意見聴取などを行い、いただいた寄付を学生が有効に使えるよう、サポートしていくそうです。

学生が真剣に地域社会の課題を向き合うことを応援する気持ちで、寄付をいただければと思います。

沖縄 ecocon とは

エクスブリッジがサポートする那覇市「4R 推進事業」の一環として、2012年3月に開催予定している、学生のアイデアを募るコンテスト。学生たちが、沖縄のゴミの排出量を減らすアイデアを出し合います。

4Rとは？

環境を保全し持続可能な社会をめざす、ゴミに関する取組みのこと。Recycle（リサイクル／再生利用）・Reuse（リユース／再利用）・Reduce（リデュース／減量）・Refuse（リフューズ／拒絶）の4つの頭文字をとってこう言われています。

団体利用者の声

地域と関わっていく機会があることで、大学内だけでは知らなかった、世の中の課題を知り、実際に自分たちで解決に向けてチャレンジする機会を得られました。自分なりに考え行動すると、また新しい発見がありました。その繰り返しのなかで自然と自分の進みたい方向性がわかるようになったと思います。

また活動の中で多くの大学生の仲間達ができました。私は就職で沖縄を離れますが、その仲間たちと、将来は沖縄に戻って一緒に沖縄の活性化に繋がることをやっていこうと目標を立てています！

…R.A さん（県内大学の学生）



環境に関心のある学生たちのワークショップのようす

寄付受付情報

沖縄の学生の環境活動チャレンジ支援事業

助成先：NPO エクスブリッジ

専用口座 沖縄銀行 鳥堀支店 普通 1387956
琉球銀行 首里支店 普通 580481

郵便振替

01780-6-149204

【通信欄への必記事項】学生環境チャレンジ

Check!!

公益財団法人みらいファンド沖縄を通じてこの事業にいただいた寄付は、**税制優遇(寄附金控除／損金算入)の対象**となります

*領収証の必要な方は、みらいファンド沖縄まであらかじめ「寄付申込み」を行い、領収証発行に必要な事項をお知らせください。
*各寄付受付口座の名義はすべて「公益財団法人みらいファンド沖縄（代表理事 小坂巨）」となります。

子どもへの暴力防止ワークショップを寄贈できる

CAP プログラム 「お試しセット」プレゼント事業

助成先：特定非営利活動法人おきなわ CAP センター

寄付募集目標額 100,000 円×3 回分= 300,000 円



就学前ワークショップの様子

傷ついた子どもを、さらに責めていませんか？

沖縄は、出生率も他県に比べて高く「子宝の島」と言われています。しかし、子どもがさまざまな暴力に会う危険の少ないところは決して言えません。いじめ、児童虐待、集団暴行、米軍基地から派生する暴力……子どもたちの周囲には、さまざまな形の暴力が存在します。

周囲の大人は、パトロール活動をしたり、子どもを危険に近づけたりしないよう努力されていることでしょう。しかし、万が一、子どもが被害にあいそうになったとき、自分を守るのは子ども自身です。子どもが身を守ることを知る事は、とても大切です。

さらに、子どもが暴力の被害にあった後、大人たちの反応がさらに心を傷つけてしまうこともあります。子どもに対し「危険なところに行ったのが悪い」「どうして逃げなかった？」と言ってしまうと、子どもはいつまでも自分を責めて、本人の回復も失われ、大人に相談することもできなくなるそうです。

子どもが自分を守るように

CAP プログラムとは、子どもに直接人権について伝え、暴力回避の方法を教え、相談する大切さを共に学ぶワークショップです。おきなわ CAP センターは、2011 年で 15 周年を迎え、これまでの CAP プログラム実施回数は 2000

回を超えます。子ども自身に勇気を希望を与え、身を守る方法を楽しく学べる CAP プログラムは、学校からの依頼を受け実施する他、自治会などから依頼を受けることもあるそうです。

また、大人向けのワークショップもあり、子どもを暴力から守る知識、暴力を受けた子どもを支える方法などを知る事ができます。

沖縄のすべての子どもたちに CAP プログラムを

年間約 200 回のプログラムを実施するおきなわ CAP センターですが、それでもまだ沖縄のすべての子どもたちのところには届いていません。しかし、受入れる学校側には講座に使える予算が少なく、なかなかプログラムを呼べないのが現状です。

おきなわ CAP センターでは、このプログラムの「お試しセット」を、まだ CAP プログラムを実施したことのない学校・地域へプレゼントするため、寄付を募っています。

問題が起きたときに、このプログラムを受けたいれば、勇気を出せると思います。CAP プログラムを一人でも多くの子どもに受けてもらえるよう、寄付による支援をお願いいたします。

100,000 円集まったら、こんなプログラムが 1 校にプレゼントされます。

- ・子どもワークショップ 2 クラス分
- ・大人ワークショップ 1 回
- ・子ども向け復習用書籍を提供
- ・相談機関一覧カードを配布

代表者の言葉



長田 清

NPO 法人おきなわ CAP センター 代表理事

子どもたちが成長する過程で遭遇する困難や危険から子どもを守るためには、親や社会の力だけでは十分ではありません。子どもが自分自身を守る力を身につけ、自分を大切にする気持ちを持つ。それが自分を守る第一歩です。子どもが安心して自信を持って、いきいき生きること、それが CAP の願いです。

寄付受付情報

CAP プログラム「お試しセット」プレゼント事業

助成先：特定非営利活動法人おきなわ CAP センター

専用口座 沖縄銀行 鳥堀支店 普通 1387912
琉球銀行 首里支店 普通 580443

郵便振替 01780-6-149204
【通信欄への必記事項】CAP プログラム

Check!!

公益財団法人みらいファンド沖縄を通じてこの事業にいただいた寄付は、**税制優遇(寄附金控除/損金算入)の対象**となります
*領収証の必要な方は、みらいファンド沖縄まであらかじめ「寄付申込み」を行い、領収証発行に必要な事項をお知らせください。
*各寄付受付口座の名義はすべて「公益財団法人みらいファンド沖縄(代表理事 小阪巨)」となります。

障がいを持つ子どもを支えるためのシンポジウム開催に支援を 障がいがあってもお家で生活ができる環境づくりシンポジウム事業

助成先：一般社団法人 Kukurū (くくる)

寄付募集目標額

115,000円



障がい児と家族の沖縄旅行のようす

医療的ケアを必要とする子どもたちとその家族

重度の障がいを持ち、医療的ケアが必要な子どもが、在宅生活をしているケースがあります。施設に入所できれば手厚いケアを受けられそうな印象がありますが、実は法的制約から医療的ケアを行える施設は数が少なく、受け入れられる子どもの人数に限りがあるため、在宅介護を選択せざるを得ない家族は多いのです。

重度の障がいを持つ子どもほど、必要な支援を受けにくく、その負担は家族にのしかかります。つきっきりになるため共働きはできないのに、在宅ケアに必要な薬や衛生材料などの負担で経済的にも負担が大きくなるためです。24時間介護を強いられる家族は、その生活にも負担がかかるばかりか、地域社会から孤立しがちとなり、身も心も疲れてしまう……。そんなケースは少なくありません。

家族みんなが笑顔になることを支援する Kukurū

一般社団法人 Kukurū (くくる) は、障がいのいる家族の旅行を支援しています。沖縄の海・空・文化……誰もがあこがれる沖縄への旅行。それは障がいを持つ人でも同じです。Kukurū では、家族の要望に応じ、ケアスタッフを配置したり、車いすでも入れるお店を紹介したり、と家族の思い出づくりを全面的にサ

ポートする事業を行っています。沖縄への受け入れは月2組程度。法事などで本土へ行きたい、という沖縄からの旅行もお手伝いしています。

また、Kukurū は、障がい児を持つ家族が、介護から一時的に解放され休息を取ること＝レスパイトの必要性も強く訴えており、家族の代わりに数時間の介護を請け負うサービスも実施。家族がみんな、笑顔で過ごせることを願って……。

障がいを持つ子どもとその家族が、地域で暮らせるように

Kukurū では、障がいを持つ子どもとその家族を地域で支えられるネットワークづくりをめざして、シンポジウムを開催してきました。これまでの2回では、いずれも100名を超える参加者があり、関心はとても高いことがわかります。障がいを持つ子どもとその家族が地域社会で暮らしていくことは可能です。そのためには、医師、看護師、介護に携わる人、そして、家族の住まう地域の人々をつなぎ、支え合うネットワークをつくるのが重要です。

今回、寄付をお願いするのは、障がい児のいる家族を支える地域社会のネットワークを考えるシンポジウムの開催の費用です。みなさんの寄付が、多くの家族の笑顔につながります。

代表者の言葉



鈴木 恵

一般社団法人 Kukurū (くくる) 代表理事 / 看護師

医療的ケアが必要な子供が在宅生活を送るためには、その介護を担う家族支援と地域の支えが必要です。Kukurū では、小児在宅障がい児の家族支援を基本理念に活動を行っています。医療的ケアがある在宅生活は介護負担がより大きくなり、なおかつ行政支援が受けにくい現状を、皆さんに知っていただき、支援活動にご協力いただければと思っています。



前回のシンポジウムのようす

寄付受付情報

障がいがあってもお家で生活ができる環境づくりシンポジウム事業

助成先：一般社団法人 Kukurū (くくる)

専用口座

沖縄銀行 鳥堀支店 普通 1387923
琉球銀行 首里支店 普通 580467

郵便振替

01780-6-149204

【通信欄への必記事項】在宅ケアシンポジウム

Check!!

公益財団法人みらいファンド沖縄を通じてこの事業にいただいた寄付は、**税制優遇(寄附金控除/損金算入)の対象**となります

*領収証の必要な方は、みらいファンド沖縄まであらかじめ「寄付申込み」を行い、領収証発行に必要な事項をお知らせください。

*各寄付受付口座の名義はすべて「公益財団法人みらいファンド沖縄(代表理事 小坂巨)」となります。

小中学生の職場体験学習をマチグワーで受入れることを支援 マチグワーで子どもを育てる 職場体験受入れプロジェクト

助成先：特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく

寄付募集目標額 80,000円×2回分=160,000円



職場体験の様子

ウチナンチュは行かない？

那覇市の国際通り周辺の中心市街地には、戦後の闇市から発展した市場、マチグワーがあります。その市場特有の雑多感と異国情緒もほのかに漂う境界は、観光客に人気のスポットなのは誰もが知るところ。しかし、スーパーマーケットに慣れた地元住民には、あまり足を運ばない場所となりつつあります。マチグワー周辺の学校に通う子どもたちからは、「市場に行ったことがない」「行く用事もないし」という声が聞こえています。

一昔前まで商店街のお店は、子どもたちが最初に目にする「職場」のひとつでした。スーパーマーケットどころかインターネットでの買い物に慣れた子どもは、「働くこと」の具体的なイメージが持てるのでしょうか？

3日間の職場体験は、子どもも大人も学びがいっぱい

マチグワーが、中学生の「職場体験」を受入れ始めたのは2005年。近隣の中学校をはじめ、年に数回、20名ずつを受け入れてきました。お店のお手伝いを通じて子どもたちは「働く」ということを具体的に受け止めるようになります。元気にお客さんに挨拶をする子どもたちの声は、マチグワーを明るくします。それだけではなく、受け入れる側のお店の方たちからは、働く姿を見られることで気持ちが引き締

まった、という声もあるそうです。

当初は、NPO法人まちなか研究所わくわくが受入れてくれるお店を探し、交渉や受入れ後の中学生のアフターケアをしてきました。現在は、マチグワーの有志とともに行っています。これまでは、依頼がある毎に対応してきましたが、この「職場体験」をプログラム化し、より多くの中学生を受け入れていければ、と考えています。しかし、予算も人員もなく、受け入れ件数を増やすことができません。

マチグワーが地域住民に愛され、利用される場所になるように

「体験」すれば、そこはもう知らない世界ではなくなります。きっと将来もずっとマチグワーを、そしてマチグワーを内包する那覇の街を好きでいてくれることでしょう。

このプロジェクトへの寄付は、受入れてくれるお店のコーディネイト、マチグワーの歴史や働くときのマナーを学ぶ事前学習会、そして体験を振り返る会など、中学生の「職場体験」が実りあるものになるためのサポート費用に使わせていただきます。



職場体験前のオリエンテーションの様子

寄付 80,000円分が集ったら、
中学生 20名の「職場体験」受け入れ事業ができます。

- ・店舗への受け入れ交渉
- ・中学校への出前講座（歴史・マナー）
- ・マチグワーの紹介冊子の配布
- ・職場体験終了後の振り返り会



『19人が話した マチグワーの歴史』

年配者の貴重な記憶を残していくとともに、若い世代にマチグワーに親しみを感じてもらうきっかけづくりになればと、まちなか研究所わくわくが発行した冊子です。1950～70年代当時の写真やランドマークを記入した地図、年表を掲載し、商店街の歴史を多面的にとらえられるよう構成。また、商店街の活性化をテーマにしたグループ学習のためのワークシートもあり、中学校の先生方にも使いやすく工夫されています。この冊子のお問合せは、まちなか研究所わくわくまで。

<http://www.machiwaku.com/>

寄付受付情報

マチグワーで子どもを育てる職場体験受入れプロジェクト

助成先：特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく

専用口座 沖縄銀行 鳥堀支店 普通 1387934
琉球銀行 首里支店 普通 580474

郵便振替 01780-6-149204
【通信欄への必記事項】 マチグワー職場体験

Check!!

公益財団法人みらいファンド沖縄を通じてこの事業にいただいた寄付は、**税制優遇(寄附金控除/損金算入)の対象**となります
*領収証の必要な方は、みらいファンド沖縄まであらかじめ「寄付申込み」を行い、領収証発行に必要な事項をお知らせください。
*各寄付受付口座の名義はすべて「公益財団法人みらいファンド沖縄(代表理事 小阪巨)」となります。

講師派遣を通じて、離島の子どもたちの成長を支援

沖縄離島バドミントン基金

助成先：沖縄離島バドミントンスクール実行委員会

寄付募集目標額

1,000,000 円 (毎年)

(2011 年 3 月末までの目標額。その後も継続して募集)



講習会開催の様子

離島では野球やサッカーができない

沖縄県内の離島や山間地の小中学校では、バドミントン競技が人気のスポーツとなっています。それは、子どもの人数が少なく、野球やサッカーといった多人数を必要とするスポーツをするのが困難だからです。また一方で、体育館等の設備が充実していることも、その理由のひとつとなっています。

スポーツ競技を通じて達成感や社会性を得ることによって、子どもたちに自信や豊かな心が育まれます。離島にも専門的な指導をしてくれる人がいれば、子どもたちの目標も高まるのですが、なかなかそういうわけにもいきません。

じぶんにもできることがある

そんな状況を見て「自分にできることがある」と思ったのは、那覇市出身の大見謝恒章さんです。大見謝さんは、国体などにも出場した元選手。離島出張の多いお仕事だったことから、この社会的課題に気付き、出張先で機会があれば、子どもたちの指導を行っていました。

そんなときに、みらいファンド沖縄が設立。ご縁あって大見謝さんと出会い、この基金を第1号として設立することになりました。それから1年の間に、50万円を超える寄付をいただき、離島でのべ9回の講習会を開催することができました。

子どもたちが自信を持って社会へはばたけるように

これまでひとりで行っていた講習会も、寄付をいただくことで、県の中高校生チャンピオンや、沖縄銀行の社会人選手も一緒に訪島する機会も作れました。運営を実行委員会化し、仲間も増えてつあります。

この小さな基金で実施される小さな講習会は、島の子どもの大きな励みになっています。あなたの寄付が、離島の子どもの笑顔に確かにつながります。

60,000 円の寄付が集まったら
近距離の離島に講師を2名派遣、
1泊2日の講習会、シャトルを
120個寄贈することができます！

実績

2010年7月から2011年10月までに536,336円の寄付をいただき、こんなことができました。

- ・4つの離島で、のべ9回の講習会を開催
 - ・のべ20人の講師を派遣
 - ・のべ222人の子どもが受講
 - ・合計840球のシャトルを寄贈
- 引き続き、ご支援をお願いいたします！

基金の創作者の言葉



おおみじや つねあき
大見謝 恒章 さん

仕事で離島を訪れた際、ある中学校で講習会を開催しました。その時顧問の先生より「能力の高い生徒は多いが、専門的な指導が出来ない」との声を聞き、他の島でも同じような悩みがあるのでは、と思いました。

バドミントンが好きな方はもちろん、離島出身者やスポーツ好きな方にも、ぜひこの基金にご支援をよろしくお願いします。

那覇市出身。中学2年からバドミントンを始め、首里高校、沖縄国際大学を経て、社会人では国体・全日本社会大会等に出場。昨年まで国体成年男子監督を務める。
主な成績：インカレ出場3回、国体出場5回、全日本シニアベスト16（シングルス）、沖縄県総合シングルス優勝、沖縄県総合ダブルス優勝、沖縄県混合ダブルス優勝（3連覇）

寄付受付情報

沖縄離島バドミントン基金

助成先：沖縄離島バドミントンスクール実行委員会

専用
口座

沖縄銀行 鳥堀支店 普通 1379594 ゆうちょ銀行 17000-16202051
琉球銀行 石嶺支店 普通 409710

Check!!

公益財団法人みらいファンド沖縄を通じてこの事業にいただいた寄付は、**税制優遇(寄附金控除/損金算入)の対象**となります
*領収証の必要な方は、みらいファンド沖縄まであらかじめ「寄付申込み」を行い、領収証発行に必要な事項をお知らせください。
*各寄付受付口座の名義はすべて「公益財団法人みらいファンド沖縄（代表理事 小坂巨）」となります。

グローバルな視野をもつ、沖縄の次代を担う人材の育成を 沖縄学生 SIFE ワールドカップ 派遣支援基金

助成先：地域活動に関心があり、SIFE ワールドカップ視察を希望する県内大学生（公募）

寄付募集目標額

1,000,000 円（毎年）



SIFE ワールドカップ 2011 のようす
(助成を受けた学生が撮影)

社会的課題の解決に取り組む 学生の世界大会 SIFE

社会的課題に取り組む学生たちの世界大会があるのをご存知ですか？ SIFE（サイフ / Students In Free Enterprise）は、約 40 カ国、1,500 以上の大学が参画している、大学教育と企業を結ぶ国際的 NPO。毎年 10 月に開催される「SIFE ワールドカップ」では、各国の予選を勝ち抜いた大学が、27 分間の事業プレゼンテーションで競い合います。日本も 2005 年から参加しており、2010 年大会では日本代表（滋賀大学）がベスト 16 に残る快挙を成し遂げました。

じぶんたちが世界とつながり、 沖縄の未来を拓く

琉球大学の学生、牧志朝英さんは、学生 NPO での活動や那覇市 NPO 活動支援センターのインターンシップなどに取り組んできた中で、「沖縄と県外・海外をつなぎたい」という思いを強くしていました。そんな牧志さんは、2009 年の日本代表、関西学院大学の学生の話聞き、SIFE への参加が学生の視野を広げると確信。他の沖縄の学生 NPO にも呼びかけたところ、2 年間で 4 団体が日本大会に挑戦しました。夢は大きく「2020 年に沖縄へ世界大会を誘致すること」。牧志さんは来年には社会人となりますが、これからも後輩たちを支援し、その夢を未来に繋ぎます。

沖縄の学生を世界大会の視察へ

この基金では寄せられた寄付で、世界大会を見たという学生に助成を行います。これまでの派遣学生は就職・進学した後にも後輩へ活動のアドバイスをしており、世界大会誘致の夢を共有する仲間も増えています。

世界的視野を持つ若者を育て、沖縄の未来をつくるこの基金への寄付をお待ちしています。



もし SIFE ワールドカップが沖縄で開催されたら…

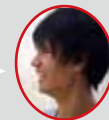
1,000 人の学生と、
400 人のビジネスパーソンと、
100 人の大学関係者が、
世界約 40 カ国から来沖！

沖縄の学生の刺激になるだけでなく、観光などその他の産業にも波及効果があります！

実績

2010 年 8 月から 2011 年 10 月までに 795,110 円の寄付をいただき、2010 年に 3 名、2011 年に 2 名の学生を派遣することができました。引き続き、ご支援をお願いいたします！

基金の創作者の言葉



まきし ともひで
牧志 朝英 さん

これから沖縄や日本社会の変革を担っていくのは、わたしたち沖縄の若者です。SIFE はそのビジョンを達成するのに適していると私は考えています。

2020 年までに SIFE ワールドカップを沖縄に誘致したいです。そして将来、沖縄と世界の人々が共生していくためのつなぎ役になりたいです。

1988 年那覇市生まれ。首里高卒。琉球大学観光産業科学部産業経営学科 4 年次。読売新聞社への就職が内定。那覇市 NPO 活動支援センターインターン中の 2009 年に SIFE に出会い、2020 年世界大会の沖縄誘致を夢見る。NPO カタヤピラニ代表。

寄付受付情報

沖縄学生 SIFE ワールドカップ派遣支援基金

助成先：地域活動に関心があり、SIFE ワールドカップ視察を希望する県内大学生（公募）

専用
口座

沖縄銀行 鳥堀支店 普通 1380262

郵便
振替

01780-6-149204

【通信欄への必記事項】SIFE ワールドカップ

Check!!

公益財団法人みらいファンド沖縄を通じてこの事業にいただいた寄付は、**税制優遇（寄附金控除／損金算入）の対象**となります

*領収証の必要な方は、みらいファンド沖縄まであらかじめ「寄付申込み」を行い、領収証発行に必要な事項をお知らせください。

*各寄付受付口座の名義はすべて「公益財団法人みらいファンド沖縄（代表理事 小阪巨）」となります。

応援したい活動はありましたか？

掲載している取組み・団体へ、みらいファンド沖縄を通じて寄付することができます。

1 寄付したい基金・事業を選ぶ

この冊子で紹介している事業・団体は、みらいファンド沖縄ウェブサイトにも情報を掲載しています。団体の詳しい情報や、これまでの活動のようすも、ぜひ見てみてください。



2 寄付を申し込む

領収証や事業報告を希望される方は、必要事項をみらいファンド沖縄へお知らせください。

必要事項

お名前、ご住所（住民票記載の住所）、連絡先（お電話番号、E-mail）、寄付先に指定する基金・事業名、寄付を予定している金額

- * ウェブサイトの「申込みフォーム」のご利用が便利です。
- * FAX 用シートを、ウェブサイトからダウンロードすることもできます。

！ 寄附金の税制優遇を受けるには確定申告の時に住民票記載の住所を明記した領収証が必要ですので、必ず「寄付申込み」を行ってください。



3 寄付する

寄付の入金方法は、右の方法からお選びいただけます。



4 基金・事業に助成金として届く

- * 事業ごとに定めた時期／方法で、寄付先に助成金が届けられます。
- * 助成金となるのは、いただいた寄付金の中から15%（銀行やクレジットカードの手数料と運営費）を除いた金額となります。



5 課題の解決に活かされる

銀行振込

！ 基金ごとに寄付受付口座番号が異なります。口座番号は必ず希望する基金・事業のページでご確認ください。

- * 領収証が必要な方は、必ず「寄付申込み」を行ってください。
- * 振込手数料は、誠に申し訳ありませんが、振込する方でご負担くださいますようお願いいたします。
- * 寄付受付口座の名義はすべて、みらいファンド沖縄の名義となっています。

銀行振込

！ 全基金・事業共通の振替口座となります。通信欄に必ず、基金・事業名を記入してください。

- * 領収証が必要な方は、通信欄に必要事項を記入するか、「寄付申込み」を行ってください。
- * 振替手数料は、誠に申し訳ありませんが、振込する方でご負担くださいますようお願いいたします。

銀行振込

システム提供：CANPAN ペイメントサービス

ウェブサイトから、クレジットカードで寄付をしていただけます。

ご利用いただけるクレジットカード



- * 寄付額の設定は、2,000 円を1口とし、口数を入力していただく形式となっています。
- * クレジットカードによる寄付は、ウェブ上で手続きした日からみらいファンド沖縄に入金されるまで、1～2 ヶ月かかります。そのため11月以降のクレジットカードからの寄付は、領収証の発行が翌年になる場合があります。領収証を希望し、税制優遇を年内に受けようとする方は、お手続きの時期にご注意ください。

銀行振込

- * 現金書留での入金も受付いたします。その場合「寄付申込み」を同封いただくこともできます。
- * 直接お持ちいただく場合は、必ず事前にご連絡をお願いいたします。

みらいファンド沖縄ウェブサイトでは、寄付申込みやクレジットカード決済での寄付ができ、事業・団体の情報などが見られます。

<http://miraifund.org>

寄付控除の 説明

公益財団法人への寄付は、税制優遇が受けられます。

いずれの手続きも、みらいファンド沖縄が発行する領収証が必要となりますので、手続きをしようとする方は、「寄付申込み」を行ってください。

個人の方

確定申告の際、寄付をしたことを申告すると、寄付金控除を受けることができます。

所得税

所得控除方式または税額控除方式が選択できますが、税額控除方式をお勧めします。

税額控除方式

「1年間の寄付額－2,000円」×40%
が所得税から差し引かれます。

住民税

下記の金額が、住民税から差し引かれます。

沖縄県民

(寄付金額－2,000円) × 4%

下記の市町村 の住民

(寄付金額－2,000円) × 6%

* 下記の市町村民の方は、条例で公益財団法人への寄付を税制優遇の対象となります。
うるま市、糸満市、西原町、北中城村、中城村（2011年3月調べ）

いずれの税制優遇も、上限額の計算等があります。詳しくは、みらいファンド沖縄までお問合せいただくか、お近くの税務署や税理士にご相談ください。

法人の方

損金算入

一般損金算入 限度額

資本金の額の0.25%＋所得金額の2.5%
2

特別損金算入 限度額

資本金の額の0.25%＋所得金額の5%
2

特別損金算入額も合わせた額まで適用され、一般の損金算入額の2倍以上の金額を算入することができます。

相続税

相続財産の寄付は、「非課税財産」となります。

● 相続税の申告期限までの寄付が対象となります。

みらいファンド沖縄への寄付のお願い

沖縄のNPOを「情報流通」と「資金循環」で支援する公益財団法人です。

沖縄の地域社会を支えるNPOがより活動しやすい環境を整える財団法人の運営を、どうぞご支援ください

みらいファンド沖縄は、沖縄のNPOの情報発信を促進することで、社会の“共感”を育み、市民社会を支える地域資源の循環をめざし、NPOを支援する「公益財団法人」です。

いただいた寄付は、みらいファンド沖縄の運営を支える費用や、新しい寄付と支援のしくみの開発などに充てさせていただきます。

寄付受付情報

みらいファンド沖縄の運営の支援

専用
口座

沖縄銀行 首里支店 普通 1408641

郵便
振替

01780-6-149204

【通信欄への必記事項】みらいファンド沖縄



公益財団法人

みらいファンド沖縄

903-0812 那覇市首里当蔵町 1-11-20 新垣ビル 1F
tel. 098-884-1123 fax. 098-884-1124 E-mail. office@miraifund.org
営業時間 9:00 ~ 18:00 (土日祝を除く)

